

席題 お題「根」

橘 正清選

宿根草まいど枯れても出てきます

充

善人だ悪役スターああ見えて

千 楽

四十度老いの根性試される

アキラ

くたびれて行く所なし根無草

勝利

心根のきれいな人に一目ぼれ

春代

再起への勇気の根っこ地面這う

よう子

根を下ろす海へ散骨場所もなく

幸 男

扱いの心根わかるボランティア

登 美

うちの嫁やつと根づいて自然体

哲 子

根なし草いつかやつたる意地はある

よし尚

根は善いと言われて笑うお人好し

広 子

秀根回しをした事忘れ墓穴掘る

乃り子

軸悩みなど根こそぎにして枯れてみる

正 清

宿題 お題「輪」(連記)

野々村アキラ選

甲子園感動の輪が空おおう

哲 子

大漁の投網きれいに輪を描く

登 美

幼な子の公園デビューやつと輪に

春代

年輪を重さねる五十今は百

幸 男

一輪車乗れて苦手に自信もつ

よし尚

人気曲わが家は咲かぬ二輪草

充

特養でダイヤ光らす葉指

広 子

知恵の輪を解いて冥途へ晴れ姿

勝利

公転と自転に年輪のあらわ

正 清

手をつなぐ何かが出来るシニア達

千 楽

ためらいを捨てて地域の輪にとける

よう子

秀輪は丸い先入観が邪魔をする

乃り子

軸パワハラセクハラ五輪指導者ご注意を

アキラ

宿題 自由吟(共選)

五十嵐千楽選

夏まつりここぞとばかり市長来る

充

節電と言わぬ今年の夏異常

幸 男

阿波踊りエライユツチャ泡を食う

幸 男

夏バテの胃に気配りの冷奴

よう子

猛暑のせいセミも夏バテ小声気味

乃り子

四十度脳漿冷やそ昼ビール

よし尚

たんたんと生きております蟻地獄

広 子

ピンチすらチャンスに変えるしたたかさ

登 美

清濁を併せて飲んで痛む腹

アキラ

快樂に困ばいという生き地獄

正 清

微力でもつながる気持ち力生む

哲 子

白髪のなかにぎつしり大事典

登 美

秀神の意志幼児救ったボランティア

哲 子

軸もめたけど夏はやつぱり阿波踊り

千 楽

宿題 自由吟(共選)

澤山よう子選

大阪で付度まんじゅう売れてます

充

ひまわりと太陽ずつとにらめっこ

春代

もめたけど夏はやつぱり阿波踊り

千 楽

一陣の秋が見送る孫戦さ

広 子

アマゾンで埋めつくせない痛い傷

乃り子

窮極のねばりを見せた二枚舌

勝利

微力でもつながる気持ち力生む

哲 子

たんたんと生きております蟻地獄

広 子

ピンチすらチャンスに変えるしたたかさ

登 美

節電と言わぬ今年の夏異常

幸 男

猛暑のせいセミも夏バテ小声気味

乃り子

川あばれ人の行く末夢流す

春代

模様替えしても消えない懷疑心

勝利

神の意志幼児救ったボランティア

哲 子

秀快樂に困ばいという生き地獄

正 清

軸夏バテの胃に気配りの冷奴

よう子

宿題 お題「濁る」(互選)

②清流も私が入れば濁ります

充

汚れ放題だ道徳の教科書

千 楽

澄み過ぎても濁り過ぎて住みにくい

乃り子

混濁の父の手握りありがとう

アキラ

秘密の話しもだんだん濁り出す

よう子

清水も環境次第魚住めず

登 美

③好きなこと言葉にごすが目が語る

よし尚

にがり酒通を気取って腰立たず

よし尚

④絶望と怒り飲み込むにがり酒

哲 子

濁流におろちが溺れワラを乞う

正 清

達観かっいに清濁あわせ飲む

充

全省庁が白書やめ黒書出す

千 楽

入浴剤知らずいい湯と高い宿

乃り子

⑤記憶濁って過去はみな美化される

よう子

⑦生き延びるための濁世はよく絡む

勝利

濁流に揉まれて萎えた正義感

勝利

煩惱を溶かしてひとり濁り酒

広 子

⑧秀茶を濁す手腕買われて議員秘書

広 子

夏バテの皆さん多いらしく、出席十三人。秀句五句のうち、なんと四句が女性陣(乃り子二句、広子、哲子)だった。「男性陣、奮起を」(千)

鹿ノ台川柳教室会員の新聞投句 掲載された句

(七月十六日〜八月十九日各紙掲載分)

朝日新聞 田中新一選

八月十六日 題「ゆったり」

太極拳空気に人が溶けている

毎日新聞 山田順啓選

七月十九日 題「自由」

逝き方は神の采配待つばかり

七月二十六日 題「ダンス」

思い出をフオークダンスの輪がつなく

ダンスホール聞くだけで頬紅くなる

八月二日 題「童話」

日本の昔ばなしに夢を見る

八月九日 題「半分」

半分は自分のためのボランテニア

半分と言って大きい方をとる

バスが来て話半分置いて来る

読売新聞 阪本高士選

七月二十九日 題「魅力」

逆行線の絵に肉体のシャワー

奈良新聞 居谷真理子選

七月十八日 題「大きい」

大物になったか敵が多くなる

大は大小を兼ねると言う神話

断層の大きくなった倦怠期

大空と友達となり紫外線

七月二十五日 題「ほめる」

堂々と嘘も交えている弔辞

そこをほめるか相変わらずの的外れ

ライバルは誇る友よりほめる友

血管をほめちぎられてカテーテル

優柔不断奥ゆかしいとほめられる

これがなぜ首を傾げる文学賞

八月一日 題「時代」

時代遅れ褒め言葉だと聞いておく

年功序列そんな時代もありました

八月八日 題「ぴちぴち」

鯛よりも上等ぴちぴちの鯛

ダイエット決意を示すパンツ買う
釣り上げて踊る先には荒れる海
長靴をはき水溜り跳ねている
ぴちぴちがぷりぷりになりぶりぶよぶよに
八月十五日 題「逆」
英二
正清
よう子
幸男

逆転で勝って一層強くなる
逆縁の墓を守って半世紀
大声で叱る態度の逆効果
思ってる逆を話せばいい夫婦
失敗もクラス会では武勇伝
アキラ
英二
幸男
乃り子
よう子

奈良新聞 自由吟

七月十九日 大楠紀子選

争いはしないと決めた丸い爪

鳳凰が時空の海に船を出す

ひと呼吸おいて喋れば尖がらず

ちっぽけな勇気が仇になる現世

八月九日 松本柎子選

いい目覚めいつもと違う朝がくる

頑固にもなり切れず又空気読む

えんえんと甘党ならば蟻の列

八月十六日 松本柎子選

一言の追伸ドキリ波を打つ

救急車熱中症に休暇なし

施錠OK妻と指さし声も出し

幸男
よう子
アキラ

*橘正清、林勝利、前田幸男、

各氏は短歌俳句でも活躍

次回 九月十七日、十二時十五分開場、西集会所

宿題は「本」、「残る」、「自由吟」 各二句

* 席題選者 正清 十二時三十分「お題」発表

* 「本」 * 字結び可 連記 選者 幸男

* 「自由吟」(共選) 選者 良一 乃り子

* 「残る」互選

出句、宿題・席題 とも十三時

句会の「見学」、「入会大歓迎、会費一ヶ月百円です

問合せ

原 広子 (79・0061)

野々村詮 (090・6961・1292)